町制50周年を迎えて

議会議員をはじめ自治功労者など、 多くの方々の出席 去る9月30日、仙石原文化センターにおいて、 のもと、町制50周年記念式典が盛大に開催されました。

併せて山口町長から「箱根町健康都市宣言」が発表されました。

〈4番 小川 鶴雄〉

今号は、町制50周年を契機に、議員の皆さんから、これからの箱根町の進むべき道や、 あるべき姿な -ージにして、寄稿いただきましたので、それぞれの 言メッセ "思いや願い" "箱根への思い" を紹介いたします。

〈5番 勝呂 昌子〉

堅実に守り続けることが以後の 箱根の繁栄を謙虚に受け止め、 半世紀にかけて、築き上げた

課題になると思う。

るわね」と微笑む。観光資源の 世界遺産となる。 自然と景観をみんなで守り育て、 が弾けている。 高齢者が元気に町内を行き来し 路地から子どもたちの笑い声 観光客も「この町は活気があ

〈3番 二見 嘉彦〉

観光地箱根の一番の商品は自然 観光立町として50年過ぎた今、

自然環境の保護なくして箱根

が美しい自然です。 はなく、手を入れての春夏秋冬 観光はありえません。 都心に近く、湖、温泉、歴史 手をつけずそのままの自然で

ている、箱庭的な環境をつくっ と一つのエリアですべてが揃っ て観光客に提供したい。

安全・安心の町、住みよい箱根 子々孫々まで伝えるとともに、 先人が残した歴史文化、伝統を せ、取り組んでいくべきである にするために、町民が力を合わ 天与に恵まれた美しい箱根と

ジャパン」の大合唱、箱根の出 りしも国を挙げて「ようこそ・ として、有名を馳せた箱根、折 ス」と言った哲学者がいた。 近代に至って外国人の避暑地

基礎を築く時だ。 今こそ観光・文化の大交流の か。 点に立って、生活の真の豊かさ 環境を反省し、グローバルな観 を認識することではないだろう 個々においても、今後の生活

(1番 山田

バス・電車の敬老無料パスで、

〈6番 勝俣 公好〉

ます。 残していくことが、我々に託さ れた使命であると日々感じてい しい自然・文化・伝統を後世に 先人達から受け継いだ素晴ら

をしていきたい。 しながら、安心・安全に暮らし ていける町づくりに不断の努力 同時に、住む人が自然と共生

〈 7番 村野 由紀子〉

うございます。 町制50周年、本当におめでと 50周年のこの時に箱根で暮ら

思います。 していることをとてもうれしく

せと思っております。 に暮らしていくことが箱根の幸 方々もみんな仲良く楽しく健康 も若い人もそして、お年寄りの 私が思うのは、小さい子ども

〈8番 川端 祥介〉

「箱根は世界の人々のオアシ

多くの皆さんのご協力で、

(13番 勝俣 清春)

南足柄市と結ぶ道路の整備は、 防災面にとっても必要

〈9番 勝俣

を大切にし、より広域的な行政 連携を強力に推進していく必要 くため、「箱根というブランド」 があると考えます。

〈10番 杉山 幹雄〉

0

〈11番 古川 貞夫〉

をピークに減少傾向が続いてい 箱根ですが、観光客は平成2年 誘い、歴史の香り豊かな観光地 四季折々の自然美に心が和み

町民がおもてなしの心を持って、 が国を代表する国際観光地「箱 観光客をお迎えすることが、我 根」だと思います。 今後の課題として、すべての

(12番 沖津 弘幸)

を大切にし、住民はもてなしの ることを願っています。 さつを交わす、そんな、やさし かな交流の町―箱根」に発展す い心、を感じることができる「豊 心を持ち、観光客に気軽にあい 制50周年が迎えられました。 箱根は、観光の町です。自然

国際観光地として発展してい

を振り返り、箱根の魅力を再認 識しながら、ひと味もふた味も 違った特色のある観光地にした 一度立ち止まって50年の歴史

ます。 町つくろう…はこね」を目指し 安心な町、もっともっと「いい 人と自然に優しい町、 安全で

秋は美しい紅葉と、湿原にノハ が夢です。 ナショウブを一杯に咲かせるの 箱根全山に、春はヤマザクラ、

〈16番 西村 和夫〉

町

町づくりを目指したい。 動を推進し、医療のかからない 老若男女を問わず一人一芸運

ます。 三千万人達成記念事業が行わ 記念して詠まれた句を紹介し れ、三千万人目の方がこれを 10月2日に箱根関所観覧者

笑顔でめぐる 箱根関

不可欠なものです。

の向上にもつながるような、 問題も解消され、医療サービス や税収の増、さらには少子化の まう人にやさしいまちづくりを 目指したい。 整備されることに伴い、人口 住

(14番 折橋 尚道)

考え、取り組みます。 参加により、行政と二人三脚で まちづくりは、積極的な住民

の価値を高めます。 サービスで国際観光地 交通網を整備し、豊かな温泉と 自然保護・環境のへの配慮、

〈15番 勝俣 俊彦〉